特定非営利活動法人ミチル

2025 年度活動報告書

（2025 年 4 月 1 日 〜 2026 年 3 月 31 日）

1. 活動の成果

2025 年度は、前年度にプレ開校したミチル国際学院の本開校を果たし、法人としての活動を「準備」から「運営」の段階へと進めた 1 年となった。年度当初に 1 名だった在籍生徒は順次入学者を迎え、10 月以降は 5 名が安定して通所するに至った。開校日数は 178 日、延べ利用日数は 483 日を数え、これに加えて延べ 77 日の体験入学を受け入れた。在籍校にほとんど登校できていなかった生徒の多くが、病欠を除いてほぼ休まず通所するようになり、在籍校の授業に復帰した生徒や、全日制高校へ進学した生徒も生まれている。

高校生の居場所（ユースセンター）については、年度前半に体制上の課題が表面化した。従来はカフェの営業時間に合わせて 2 階を開放してきたが、当年度はカフェの営業が週末中心となったため、高校生が最も来館しやすい平日の放課後に施設を開けられない日が続いた。この課題に対し、2025 年 8 月に「みんなの居場所時間」として地域住民に見守りボランティアを呼びかけ、説明会を経て 12 名の協力を得た。9 月以降は平日にも開館できる体制が整い、年間約 180 日の開館を確保している。特別なスキルを求めず「ただそこにいてもらう」という関わり方を設計したことが、年齢や性別を問わない幅広い参加につながった。

地域教育の分野では、竹野小学校と竹野中学校の統合により開校した小中一貫校・豊岡市立竹野学園から、新設科目「たけの未来づくり科」のカリキュラム設計と授業実施を受託した。9 年生 20 名を対象に年間 30 コマの探究学習を実施し、2026 年 2 月には「ふるさと発表会」として地域に向けた成果発表の場を設けた。あわせて、指導者が誰でも再現できるよう全 34 コマの詳細なカリキュラム構成案を策定しており、当法人が関与しなくとも学校に残る資産として整備に努めた。本事業は無償で受託しており、2026 年度も継続して実施している。

また、公益財団法人パブリックリソース財団「感動体験支援基金」の助成を受け、職業体験プログラム「ミツカレ！」を実施した。経済的に困難な状況にある子どもたちに、漫画制作・映像制作・お笑い・農業の 4 分野で本物の職業に触れる機会を提供し、延べ 15 名が参加した。6 月には韓国スタディツアーを実施し、事前学習を経て生徒 8 名が現地での交流や歴史学習に取り組んだ。

一方、計画に対して未達となった事業もある。事業計画に掲げたカフェ taputapu の法人運営については、運営体制を整えることができず、当年度は実施に至らなかった。掲示板「コノユビトマレ」を活用した交流促進も、前年度のような活動実績を残せていない。学び支援事業についても、フリースクール 5 名・通信制サポート校 5 名の計 10 名を見込んでいたが、実際の在籍は 5 名にとどまった。

財政面では、当年度も事業収入が事業費を下回り、代表理事の報酬を未払いとすることで運営を継続している状態が続いている。事業の内容と社会的な必要性に対して、それを支える収入構造が確立できていない。補助金・助成金への依存を減らし、持続可能な運営基盤を築くことが、次年度以降の最大の課題である。

2. 特定非営利活動に係る事業

(1) 高校生の居場所（サードプレイス）事業

事業の目的

高校生一人ひとりが「ここは自分の町だ」と感じられる居場所を提供し、安心して交流や学び、自己表現ができる環境を整えることを目的としています。

運営状況

- 開館日時：16 時〜19 時 30 分頃（夏季休業期間を除く）
- 場所：NPO 法人ミチル複合施設 2 階
- 開放体制の変更
  - 2025 年 4 月〜8 月：カフェ営業日（土日および平日 1 日）に合わせて開放
  - 2025 年 9 月〜2026 年 3 月：「みんなの居場所時間」として見守りボランティアによる平日開館を追加し、週 5 日程度の開館体制を確立

利用実績

- 開館日数：約 180 日（夏季休業期間を除く）
- 延べ利用人数：約 450 名
- 1 日あたりの平均利用者数：約 2〜3 名
- 見守りボランティア：12 名
- 主な利用行動：ボードゲーム、学習、進路相談、友人との談話、自由な休憩など。特定の活動を強制せず、自分らしい時間を過ごせる「第三の居場所」として機能しました。

活動の様子

年度前半は、カフェの営業が週末中心となったことにより、高校生が最も来館しやすい平日の放課後に施設を開けられない状況が続きました。この課題に対し、2025 年 8 月に「みんなの居場所時間（仮）」としてボランティア募集を開始し、8 月 29 日に説明会を実施。「特別なスキルや知識は一切必要ありません」「1 階のカフェスペースに座っていてくれるだけで大丈夫です」と呼びかけたところ、年齢や性別を問わず 12 名の協力を得ることができました。9 月以降は平日の開館が可能となり、開館日数を週 3 日程度から週 5 日程度へと拡大しています。

主な行事

- クリスマスパーティー（2025 年 12 月／ミチル 1 階／高校生 約 10 名）
  - たこ焼きパーティーとして実施しました。
- ミチル de Flea market（2026 年 3 月 7 日／出石町八木町通り／来場者 約 100 名）
  - 地域ボランティアが中心となって企画・運営を担いました。寄付により提供された衣類・書籍等を販売し、売上 13,000 円をユースセンターの運営資金に充当しています。SDGs の取り組みとして、来場者にエコバッグの持参を呼びかけました。

課題と今後の展望

- 夏季休業期間中に開館できなかったことは、高校生が最も時間を確保しやすい時期であることを考えると大きな課題です。
- 1 日あたりの利用者が 2〜3 名にとどまっており、開館体制が整った一方で、来館者数の増加にはつながっていません。広報と、来たくなる理由づくりの両面での工夫が必要です。
- 開館日誌をつけていなかったため、正確な開館日数と利用者数を把握できませんでした。2026 年度は記録の仕組みを整えます。
- 見守りボランティア 12 名という体制は、当法人にとって初めての地域参加の形です。この関係を継続・発展させ、より多くの高校生に「ここは自分の町だ」と感じてもらえる居場所づくりを進めます。

(2) 学生と地域住民との交流促進事業

事業の目的

学生と地域住民が気軽に出会い、互いの活動や想いを共有できる機会をつくることを目的としています。

実施状況

事業計画において、カフェ taputapu の運営および掲示板「コノユビトマレ」を活用した交流促進を掲げていましたが、法人による運営体制を整えることができず、当年度は実施に至りませんでした。

なお、当該カフェは代表理事の個人事業として運営されており、当法人はその営業日に合わせて 2 階のユースセンターを開放しました。

課題と今後の展望

前年度は掲示板「コノユビトマレ」から学生のアイデアが地域のイベント実施につながるなど、一定の成果が生まれていました。当年度に活動を継続できなかった要因は、常勤の管理者を置けず、掲示板の更新やフォローを担う人手を確保できなかったことにあります。

2026 年度は、事業として実施するのか、定款上の位置づけを見直すのかを含めて、体制を検討します。

(3) 学び支援事業

事業の目的

学校に通いにくい児童生徒や、自分のペースで学びを深めたい中高生に対し、新しい学びの選択肢を提供することを目的としています。

① ミチル国際学院（フリースクール／通信制高校サポート校「豊岡 SHIP」）の運営

- 開校：2025 年 4 月（本開校）
- 場所：豊岡市千代田町 11-32
- 開校日数：178 日
- 在籍生徒：5 名（年度当初 1 名、10 月以降 5 名）　※年度を通じては延べ 6 名が在籍し、うち 1 名が年度途中に退所
- 延べ利用日数：483 日
- 体験入学：延べ 77 日
- 1 日あたりの平均利用者数：約 2.7 名
- 在籍生徒の居住地：全員が豊岡市内

ICT 教材「すらら」を活用した個別最適化された学習支援を中心に、タイピング練習、漢字学習、映像制作、プログラミング学習（Roblox Studio）など、生徒の関心に応じた多様な活動を提供しました。あわせて、遠足、映画鑑賞、フィットネスジム見学、ロボット制作授業、外部講師による勉強法講座などの体験活動も実施しています。

その結果、在籍校にほとんど登校できていなかった生徒の多くが、病欠を除いてほぼ休まず通所するようになりました。在籍校の授業に復帰した生徒や、全日制高校へ進学した生徒も生まれています。

② 職業体験プログラム「ミツカレ！」の実施

公益財団法人パブリックリソース財団「感動体験支援基金」の助成を受け、経済的に困難な状況にある子どもたちを対象に、本物の職業に触れる体験プログラムを実施しました。

- 実施時期：2025 年 7 月〜8 月
- 実施場所：豊岡市内
- 参加者：延べ 15 名（漫画制作 7 名／映像制作 3 名／お笑い 3 名／農業 2 名）

③ 韓国スタディツアーの実施

豊岡 SHIP として、SHIP 運営本部と連携し、韓国スタディツアーを実施しました。

- 実施日：2025 年 6 月 23 日〜26 日（3 泊 4 日）

・参加者：生徒８名
・事前学習：３回
　－６月６日　ハングル講座
　－６月 13 日　持ち物確認・オリエンテーション
　－６月 20 日　韓国の歴史・情勢に関する講座、質疑応答
・主な内容：南ソウル大学での交流・授業体験、DMZ（非武装地帯）訪問、韓国文化体験

事前学習を３回重ねたうえで現地に臨む構成としたことで、単なる旅行ではなく、学びを目的とした渡航として成立させることができました。

なお、2026 年３月にも第２回の実施を計画し、申込受付および面談まで進めましたが、参加者が集まらず中止としています。

課題と今後の展望

・事業計画ではフリースクール５名・通信制サポート校５名の計 10 名を見込んでいましたが、実際の在籍は５名にとどまりました。利用者数の確保が引き続き最大の課題です。
・一方で、在籍生徒の定着率は高く、支援の質については一定の手応えを得ています。この実績を、より多くの家庭・学校・行政に届ける広報が必要です。
・韓国スタディツアーは、参加者確保が課題として残りました。実施時期や費用面を含め、参加しやすい設計を検討します。

(4) 家庭教育改善支援事業

事業の目的

子どもの育ちを支えるうえで、家庭の関わり方は学びの場と同じくらい大きな影響を持ちます。保護者に対して具体的な助言を行い、家庭における関わり方の改善につなげることを目的としています。

実施状況

ミチル国際学院に在籍する児童生徒の保護者に対し、個別面談を実施しました。

・対象：在籍生徒の保護者　延べ６家庭
・実施回数：１家庭あたり年３回程度、延べ約 18 回
・実施場所：豊岡市千代田町 11-32

面談では、生徒の学校生活や心身の状態を共有するとともに、家庭における関わり方の改善点を具体的にお伝えし、実践につなげていただきました。

なお、事業計画に掲げた子供食堂については、当年度は実施していません。

課題と今後の展望

・面談は学院に在籍する家庭に限られており、地域の子育て世代に向けた情報発信には至っていません。
・子供食堂の実施も含め、学院の外にいる家庭へどう届けるかが課題です。

(5) 地域教育改善支援事業

事業の目的

地域の教育資源を活かしながら、子どもたちが地域について考え、郷土への理解や愛着を深める機会を提供することを目的としています。

① 豊岡市立竹野学園「たけの未来づくり科」のカリキュラム設計および授業実施

竹野小学校と竹野中学校の統合により開校した小中一貫校・豊岡市立竹野学園において、特色ある授

業として新設された「たけの未来づくり科」のカリキュラム設計と授業実施を、当法人が受託しました。

- 実施期間：2025 年 6 月〜2026 年 2 月
- 実施回数：授業 30 コマ、打合せ 5 回
- 実施場所：豊岡市立竹野学園
- 対象：9 年生（中学 3 年生）20 名（1 学級）
- 費用：無償

「将来自分たちが住みたい町の理想像」を描くところから始め、竹野町の現状調査・課題発見を経て、実現可能性を検証したプランを地域に向けて発表するまでの探究学習を、年間を通じて実施しました。STEAM 教育の視点を意識的に取り入れ、生徒の課題発見・解決力と創造性の育成を図っています。

授業には、地域で空き家問題等に取り組む NPO 法人たけのかぞくを招き、生徒が地域課題を当事者から直接聞く機会を設けました。2026 年 2 月 7 日には「ふるさと発表会」を開催し、生徒が学びの成果を地域に向けて発表しました。

2025 年 10 月には、次年度以降の継続実施に向け、全 34 コマ（約 30 時間）の詳細なカリキュラム構成案を策定しました。ステップごとに時間配分・ねらい・内容／活動・指導上のポイントを整理し、指導者が誰でも再現性高く実施できる形に落とし込んでいます。あわせて、各ステップに対応するワークシートや評価ルーブリックの設計指針も示しました。本構成案により、当法人が関与しなくとも学校側で継続できる体制を整えています。2026 年度も継続して実施しています。

② 兵庫県立出石高等学校「地域探求授業」への協力

2025 年 10 月 23 日、出石高等学校の地域探求授業に協力しました。前年度は 9 月から 12 月にかけて毎週実施していましたが、当年度は 1 回のみの関わりとなりました。

③ 兵庫県立出石高等学校美術部「いずしレトロサイン計画」への協力

出石町の歴史的建築である永楽館に残るレトロ看板を題材とした、高校生のアートプロジェクトに協力しました。

- 実施主体：兵庫県立出石高等学校美術部（部員 10 名）
- 当法人の役割：会場提供および画材一式の提供
- 展示場所：地域交流カフェ taputapu テラス

高校生が地域の歴史的資源に目を向け、それを自らの表現に落とし込む取り組みであり、展示を通じて地域住民や観光客にも作品を届けることができました。

課題と今後の展望

- 竹野学園の事業は、新設科目のカリキュラムを外部団体が丸ごと設計・実施するという、公教育への深い関与となりました。一方で、本事業は無償で受託しており、法人の持ち出しによって成立しています。事業としての継続性を確保するため、対価のあり方について学校・教育委員会と協議していく必要があります。
- 出石高校との連携は、前年度の毎週実施から年 1 回へと大きく減少しました。竹野学園に注力した結果でもありますが、両立できる体制づくりが課題です。

3. 事業実施体制

- 運営主体：特定非営利活動法人ミチル（理事長：權赫讚）
- 事務局体制
  - 学院長 1 名（理事長が兼務）

－ 非常勤職員 1 名
－ 業務委託 1 名
－ 「ミツカレ！」実施スタッフ 2 名、講師 5 人
－ 見守りボランティア 12 名（地域住民）

・ 協力機関：豊岡市教育委員会、豊岡市立竹野学園、兵庫県立出石高等学校、市内小中学校校長会、NPO 法人たけのかぞく、志塾フリースクール、SHIP 運営本部、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、民生委員、地域住民団体など
・ 助成・補助：公益財団法人パブリックリソース財団「感動体験支援基金」、豊岡市フリースクール等運営支援補助金
・ 会議体制：通常総会（年 1 回）、理事会（年 2 回）、スタッフ会議（月 1 回）を実施し、事業運営の方針と改善点を共有
・ 運営方針：子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、「安心できる居場所づくり」と「多様な学びの機会の提供」を基本に据え、行政・学校・地域と連携して事業を展開